



令和3年5月号

## 「教育と福祉と医療と」

5月1日に娘が1歳になりました。あっという間の1年だったので、時の流れの速さに驚いています。昨年の5月の通信で「私の職業病の様な観察と推察と実践に付き合わされる娘が、将来グレてしまわないかを心配しています。」と書きましたが、最近の娘のブームは「人と物の観察」です。人が好きで、特に初めて会う人はじっと見て観察をしています。初対面の人に話しかけられるのは嫌なので、話しかけられるとプイッと違う方を見てしまいます。物も手で触りながら色々な角度で見て何かを研究している様に楽しんでいます。教えた訳ではないのに、私と似た様な事をしている娘を見ると、凄く不思議な気分になりますね。

私は、狭山市自立支援協議会こども部会に参加をさせて頂いています。こども部会ではその時の地域課題を解消して行く為に、子どもに関わる行政・教育・福祉の機関から代表者が集まり、様々な取り組みを行っており、一昨年辺りからは「教育と福祉の連携」をテーマにして、どの様な連携を取る事が出来るのかを話し合っています。

でも「連携は大事」とみんな分かっているけれど、なかなか現実に実行をして行く事は難しい。私たちも、4年前から狭山特別支援学校・日高特別支援学校・入間わかき高等特別支援学校とは年二回、担任の先生と情報交換の場を設けさせて頂いておりますが、今は6事業所合わせてこの3校に100名近く在籍をしているので、予定を組むだけでも大掛かりになってしまいます。日程調整をする際には学校に合わせて放課後に予定を組むのですが、その時間は私たちの活動時間になるので人手に余裕がないと難しくなります。

それでも、この情報交換が続いているのはお互いにメリットがあり、更には子ども達に一番メリットがあるからだと感じています。送迎の時だけでは話せない子どもの姿やそれぞれの取り組みを共有する事で更に効果が高まります。今年度も5月後半から6月にかけて実施をして行くので宜しくお願い致します。

今はまだ、全ての学校と出来ている訳ではありませんし、教育と共に医療との連携も大切になります。これからは全ての機関が「連携」をして行く事が当たり前になる様に行きたいですね。

嵯峨憲司

